

平成 9 年 5 月 19 日	<b>植 防 情 報</b>	発 表	栃木県病害虫防除所
--------------------	----------------	-----	-----------

芳賀町のスプレーギクでトマト黄化えそウイルス (TSWV) が、本県で初めて確認されました。このウイルスはアザミウマ類が伝搬し、きく、トマトをはじめ各種の野菜、花きに被害を与える恐れがあります。

## 病害虫発生予察特殊報第 1 号

病害虫名：きくえそ病（仮称）  
 作 物：きく  
 病 原：トマト黄化えそウイルス  
 (Tomato spotted wilt virus: TSWV)

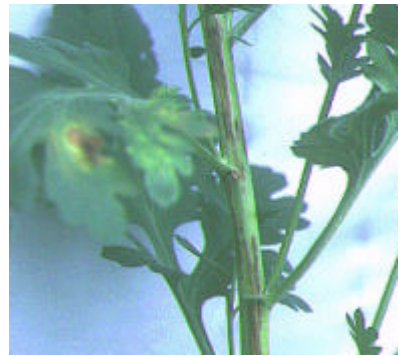
### 1 発生状況

平成 8 年秋頃から、芳賀町のハウス栽培のスプレーギクで葉に退緑色～黄色の斑点やえそ斑、茎に褐色のえそ条斑を生じる株の発生が見られた。

平成 9 年 5 月に県農業試験場で酵素結合抗体法 (ELISA 法) による判定を行った結果、これらの症状はトマト黄化えそウイルス (TSWV) によるものと判明した。

本県ではトマトなど他の作物での発生は現在未確認である。

日本では 1965 年にアメリカから輸入された隔離検疫中のダリアから初めて検出されている。1972 年に奈良県の露地トマトで発生が確認され、その後、静岡、福島、山形、愛知、岐阜県のトマト、きく、高知県のスターチスで発生が認められている。



TSWV によるきくの被害  
(芳賀町)



トマトでの症状  
(福島県農業試験場)

### 2 発生生態

#### (1) 発生が予想される作物

きく、ガーベラ、トマト、なす、ピーマン、そらまめ、らっかせい、あずき、ごま、ほうれんそうなど寄主範囲は極めて広い。

#### (2) 主要作物での病徴

**きく**：葉に退緑とえそ斑、茎にえそ条斑を生じ、やがて枯死する。発症は出蕾期に多い。

**トマト**：葉には褐色のえそ斑を生じ、黄化ししおれる。茎、葉柄には褐色のえそ条斑を生じ、茎の内部が空洞化し、激しい場合には枯死する。

果実では表面に褐色のえそ斑を生じ、こぶ状に盛り上がった奇形となり、上段の果房では落果しやすい。

#### (3) 伝染経路

アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ等) によって伝搬される。アザミウマ類は幼虫のときにウイルスを獲得し、成虫は死ぬまでウイルスを伝搬することができるが、経卵伝染はしない。また、条件によっては接触伝染もするが、土壌伝染、種子伝染はしない。

### 3 防除対策

- (1) 親株を健全株に更新する。
- (2) アザミウマ類の侵入を防ぐため、施設の開口部に寒冷紗（300番、白色）を設置する。
- (3) 雑草はTSWVの重要な感染源となるので、ほ場周辺の雑草の防除を徹底する。
- (4) 発生株は早期に抜き取り処分する。
- (5) 病害虫防除基準を参考にアザミウマ類の防除を行うとともに、アブラムシなど他のウイルス病を媒介する害虫との同時防除を行う。
- (6) 作業の際に、被害株にふれた器具や手で健全株に触れないようにする。
- (7) 収穫終了後、施設を10日間以上密閉し、作物や雑草を枯死させてアザミウマ類を絶食状態にする。また、土壤消毒を行い、土中の蛹を死滅させる。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

詳しくは、病害虫防除所にお問い合わせください。

TEL 028 - 665 - 5645

FAX 028 - 665 - 6063